



病児保育室 あんず通信 Vol.26 2018年1月

新年あけましておめでとうございます。今年も感染症の情報をお伝えして参ります。どうぞよろしくお願い致します。

【感染症だより】

～インフルエンザについて～

12月21日、東京都でもインフルエンザ注意報が出ました。インフルエンザの型は、AもBも両方流行しています。東京都感染症情報センターのWebサイトにもあるように、相変わらず2009年のパンデミックウイルスが半数程度出ています。インフルエンザにすでに罹った方も、B型の後にA型にかかったり、A型でも、AH109タイプと、AH3香港タイプと別々にかかることがあります。1度罹っても、油断せず予防を継続しましょう。

小児のインフルエンザでは、治療薬の有無にかかわらず、急に走り出す、部屋から飛び出そうとする、徘徊する、窓から飛び降りようとするなどの異常行動を起こすことがあります。発熱から2-3日は、子どもを一人で寝かさず、突然飛び出しても大丈夫な安全な場所に寝かせるようにしましょう。

「インフルエンザかな」と思っても、それ以外で高熱がでる感染症や病気がたくさんあります。例えば、RSウイルスや、咽頭アデノウイルス、溶連菌感染症や、急性腎盂腎炎などです。高熱が出たからといって、すぐにインフルエンザと判断せずに、診察を受けて判断してもらいましょう。

冬の間、特に寒さ厳しい期間は、風邪や病気にかかっていなくても、体は寒さのためにとてもエネルギーを消費しています。「自分は元気だ」と思っている、暖かい季節よりも疲れやすくなっていますので、食事・睡眠をしっかり摂り、体調管理に気をつけましょう。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(内ノ8件)	126
2	溶連菌	87
3	インフルエンザA	28
3	インフルエンザB	28
5	アデノウイルス	18
6	水痘	3
7	突発性発疹	2

★病児保育室あんずからのお知らせ★

ご予約時に満室でお断りする事がありますが、当日朝キャンセルされるも少なからずおられますので、当日朝、お電話予約再度チャレンジされることをお勧めしています。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～インフルエンザについて～

今シーズンのインフルエンザは、一度に A 型と B 型が流行したため、全国の感染者数が過去最高を記録しました。当院の 1 月の結果も、同様にインフルエンザが最高記録となりました。

インフルエンザの診断は、昔は迅速検査キットが無かったため、医師の診察（理学所見）だけで診断していました。迅速検査キットが普及してからは、微熱で元気であってもインフルエンザと診断されるケースが見つかるようになり、マスコミでも「隠れインフルエンザ」と報道されるまでになりました。微熱程度で、軽い症状のインフルエンザも大勢いる、という事になります。軽症のインフルエンザであれば、特にインフルエンザ薬を使用せずとも人間に備わった免疫力で自然治癒します。しかし、伝染力には重症軽症関係がありません。つまり、保育園などで集団生活をしている方は、感染拡大を防ぐために検査が必要、という事になります。病院で受けるインフルエンザ迅速検査は、鼻水や、鼻腔内ぬぐい液を採って 10 分程度で結果が出ますが、現在一般に使用されている検査キットは、意外に検出率が良くありません。発熱から時間が経っていないと、検出率が低くなります。つまり、病初期（発熱から 24 時間以内）では偽陰性が増えるという事になります。ですので、病初期に検査を受けられて陰性だった方には、翌日再診していただき、再検査を実施しています。それでも、2 日目には陰性で、3 日目ようやく陽性が出ることもあり、検査を 100%信じることは出来ません。ご本人の具合がよほど悪い状態でなければ、発熱から 1 日経ってから（少なくとも 6 時間は経過してから）の検査をお勧めしています。インフルエンザ薬は発熱から 48 時間以内に開始すれば有効です。発熱からの経過時間がカギになりますので、インフルエンザの流行期は体温計で検温して様子をみましょう。

また、ご家族がインフルエンザと診断されていて接触が明らかで、典型的な症状の場合には、検査結果をあてにせず、診察のみでインフルエンザと診断することもあります。

表：1 月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザ B	193
2	インフルエンザ A	104
3	胃腸炎(内/外 5 件)	72
4	溶連菌	45
5	アデノウイルス	2
6	突発性発疹	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

ご予約時に満室でお断りする事がありますが、当日朝キャンセルされるも少なからずおられますので、当日朝、お電話予約再度チャレンジされることをお勧めしています。

文責： 清水マリ子





【感染症だより】

～溶連菌感染症について～

インフルエンザがだいぶ下火になりましたが、継続して出ているのが溶連菌ようれんきんです。この冬、インフルエンザと同時に溶連菌に罹っている人が何人もみられました。インフルエンザではあまり咽のどが赤くなりませんが、溶連菌では大抵咽が赤く痛くなります（無症状で保菌していることもあります）。

溶連菌感染症は、医療機関では咽のぬぐい液の簡易検査で、5-10 分程度で診断されます。主な症状は、咽頭痛、発熱、目の充血、イチゴ舌（ペロが赤くなる）、発疹（細かい赤い発疹が主に体幹に出ます）などです。他に、中耳炎や副鼻腔炎（蓄膿症）、とびひ、蜂窩織炎、丹毒、重症になると肺炎や、菌血症、トキシックショック症候群などを起こすことがあります。また、**続発症のリウマチ熱や腎炎**があり、抗生物質による治療が欠かせません。

普通の風邪であれば、抗生物質はまず効果がないので必要ありませんが、溶連菌の場合には必要不可欠です。通常、溶連菌の治療には抗生物質を3日～10日間内服しますが、これは、治療と同時に除菌をするためです。抗生物質治療をしなかった場合、溶連菌が咽にくっついたまま（保菌）の状態となります。保菌のまま放置すると、繰り返し発病することになり、続発症を起こす可能性が高くなります。この続発症は、抗生物質治療が普及している先進国ではめったに見られなくなりましたが、いまだ現在日本国内でも患者さんが発生しています。リウマチ熱を発症すると、発熱と共に、皮膚の輪状紅斑、心炎、舞蹈病（不随意運動がおこる病気）といった症状が出ます。特に心炎は後に心臓弁膜症という病気のもとになり、後遺症として残ってしまいます。また、腎炎を起こすと、急に血尿・蛋白尿が出て、高血圧や浮腫が出現し、子どもでは高血圧による痙攣を起こすこともあります。これらの続発症を防ぐためにも、溶連菌の抗生剤治療は欠かせません。

表：2月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザB	162
2	溶連菌	90
3	インフルエンザA	70
4	胃腸炎	40
5	RSウイルス	6
6	突発性発疹	4
7	アデノウイルス	1
7	水痘	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

ご予約時に満室でお断りする事がありますが、当日朝キャンセルされるも少なからずおられますので、当日朝、お電話予約再度チャレンジされることをお勧めしています。現在、空き状況をWebで情報配信する準備をしております。準備出来次第、ご案内致します。

文責： 清水マリ子





【感染症だより】

～風邪・胃腸炎について～

春、入園の季節です。今までお家で過ごしていた子ども達も、入園して集団生活が始まり、これまでの生活が一変します。集団生活を始めることによって沢山の病原体に接する頻度が一気に増えます。これまで、風邪ひとつひかずに元気に来た子どもでも、入園と共に風邪や胃腸炎などの感染症をもらってきます。

風邪や胃腸炎の原因はほとんどがウイルスです。鼻水や咳、下痢や嘔吐の症状がすぐに移ります。うつらない様に気を付けていても、初めて接する病原体に対する免疫力（抵抗力）が備わっていないために、うつってしまいます。何度も何度も風邪や胃腸炎にかかって1-2年経つと、一通りのウイルスに抵抗できる免疫力が出来、丈夫になってきます。それまでは、今は免疫力を付ける時期なんだと思って頑張りましょう。

安静と睡眠を十分にとり、手洗いうがい、水分摂取に気を付けて、悪化させないようにしましょう。無理をさせなければ、風邪や胃腸炎は大抵2-4日をピークに改善していきます。しかし、風邪は万病のもとと言われるように、改善がみられずに悪化するときは風邪ではないかもしれません。病状が悪化したり、長引いたりするときは医療機関を受診しましょう。

表：3月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	69
1	溶連菌	69
3	インフルエンザB	42
4	インフルエンザA	17
5	RSウイルス	6
6	突発性発疹	5
7	水痘	4
8	アデノウイルス扁桃炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

この4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でもしみずクリニックの予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～麻疹（はしか）について～

ニュースなどでご存知の通り、国内で麻疹（はしか）が発生しています。福生周辺ではまだ報告はありませんが、とても感染力の強いウイルスです（空気感染）ので注意が必要です。今回の発端は沖縄を訪れた外国人観光客でしたが、そこから少しずつ拡大しています。4月25日現在、東京都、埼玉県、茨城県、山梨県、静岡県、愛知県、大阪府、山口県、福岡県でも発生しています。ほとんどの患者は麻疹予防接種歴不明かまたは未接種者ですが、2回接種者や1回接種者も罹患しています。MRワクチン接種が終わった皆さんでも注意が必要です。また、過去に接種歴があっても、20年、30年と経過するうちに抗体価が低下していきます。抗体価に不安のある方は、血液検査を受け、結果が低ければ追加接種をすることが可能です。

麻疹の潜伏期間は10日から12日です。症状は、初期は風邪と区別が付きません。発熱、咳、鼻汁、結膜炎などで始まります。発熱は2峰性に上がり、初期は38℃台が2-4日持続し、一端1℃くらい下がったのちに39℃台の発熱と発疹が続きます。後半に発疹が出てきますが、高熱は3-4日続き、発疹は徐々に全身に広がります。発熱は発病から約1週間持続し、重症になると喉頭炎や肺炎、脳炎を起こすことがあり、重症の感染症と言えます。ゴールデンウィークで空港など人混みへ行った方は、10-12日後の発熱に注意しましょう。

伝染を防ぐために解熱後3日間は出席停止と法律で定められています。

表：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	109
1	溶連菌	85
3	突発性発疹	9
4	インフルエンザA	8
5	RSウイルス	4
6	ヒトメタニューモウイルス	1
6	水痘	1
6	アデノウイルス扁桃炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～胃腸炎について～

4月、5月と連続して胃腸炎がトップでした。保育園、幼稚園、小学校、成人でも胃腸炎が出ています。ほとんどがウイルス性で、伝染します。年長児は比較的スムーズに胃腸炎から回復しますが、乳児期は下痢が長引きやすく、保育園を休む期間が長くなりがちです。なぜ乳児の胃腸炎が長引きやすいかというと、赤ちゃんの腸が未熟なためです。赤ちゃんの腸内細菌叢が成熟してくるのはだいたい3歳位で、それまでは、胃腸炎にかかりやすい状態であると言えます。元の状態に戻るまでに数週間から数ヶ月かかることもあります。根本的な治療はありませんが、食事療法、整腸剤や、乳糖の入っていないミルクを使って、腸の負担を軽減する治療を行います。登園の目安は、便が固まって来て3回くらいまでになり、本人の食欲が良好になったことです。何度か胃腸炎に罹っているうちに、次第に丈夫になりますが、乳児期は焦らずに治しましょう。

胃腸炎で特に気を付けたいのが、頻回の嘔吐や下痢による脱水症です。体内の水分が減少すると、血液の循環が悪くなり、ぐったりして意識が低下して来ます。そうならないために、制吐剤などを上手に使い、水分補給をしましょう。理想はOS-1やアクアライトなどのイオン飲料が良いですが、味が嫌いで飲めない場合には、だし汁や、コンソメスープ、おもゆ、などを工夫して与えましょう。

～麻疹について（続報）～

3月下旬に沖縄で発生した麻疹は、6月11日に終息宣言が出ました。ほっと一安心かと思いきや、先月ベトナムから帰国した埼玉県男性から麻疹が検出されました。9日後に同じ病院にいた0歳児が麻疹と診断されましたが、その後6月12日現在は発生していません。2015年3月以降日本国内由来の発生はありませんが、海外からの持ち込み症例から感染する危険が常にあり、油断できない状況です。麻疹に免疫が無い0歳児（6ヵ月から接種可能）や、20-30歳代以上でワクチン接種が1回のみの方は予防接種を受けると良いでしょう。

表：5月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	169
2	溶連菌	68
3	咽アデノウイルス	18
4	ロタ胃腸炎	7
5	ノロ胃腸炎	4
6	水痘	1
7	アデノ胃腸炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

文責： 清水マリ子





【感染症だより】

～夏風邪について～

6月29日に記録的な早さで梅雨が明け宣言され、暑い夏がやって来ました。それに伴い、夏風邪もポチポチ出てきました。夏に流行する風邪をひくくめて「夏風邪」と言っていますが、実際夏に流行するウイルス感染症はいくつかあります。代表的な夏風邪は、ヘルパンギーナと手足口病です。原因ウイルスは、エンテロウイルスやコクサッキーウイルスなどです。口の中（手足口病では手、足やおしりにも出来ます）に水疱が出来、約3分の1の人には発熱も伴います。感染すると、3～5日間の潜伏期を経て発症します。初期に熱だけ出て、翌日や3日目にポツポツと水疱が出てくることもあります。発熱と水疱は数日のうちに自然に治ります。口の中が痛くなり、水分摂取や食事摂取が出来なくなることがあります。そんな時は、刺激の少ない飲み物や食べ物を少しずつ与えましょう。熱が下がった状態で、いつものように食事が摂れるようになれば、登園は可能です。

～アデノウイルス～

こちらも夏に流行するウイルス感染症です。アデノウイルスには型が何十種類もあり、プール熱、結膜炎、胃腸炎、膀胱炎など様々な病気を引き起こします。プール熱は咽頭結膜熱とも言われ、39～40℃の高熱が5日前後続きます。アデノウイルスに特効薬は無く、治療は対症療法となります。水分摂取と安静を保ち、脱水症を起こさないように努めましょう。感染力が強いため、解熱後も2日間は登園出来ません。

表：6月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	190
2	溶連菌	84
3	咽頭アデノウイルス	15
4	ヘルパンギーナ	11
5	アデノ胃腸炎	4
6	ロタ胃腸炎	2
7	水痘	1
8	手足口病	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～RS ウイルス感染症について～

去年の今頃も流行が始まっていましたが、RS ウイルス（Respiratory syncytial virus）が流行し始めました。以前は秋ごろが流行し始めでしたが、ここ数年は、夏から流行がみられています。このウイルスは、咳やくしゃみによって移る飛沫感染が主な感染経路で、潜伏期間は 4-6 日です。年長児や成人では風邪症状のみですが、特に悪化しやすいのが 0 歳児です。乳児では気管支炎や肺炎を起こすウイルスで、咳や発熱、喘鳴（ゼエゼエとする）、哺乳低下、苦しくて眠れないなどの症状がみられます。新生児～3 か月位の乳児が罹患すると、症状が悪化して入院となることがしばしばあります。はじめは咳や鼻汁の風邪症状だけであっても、急に悪化することがあります。眠れない、哺乳出来ない（いつもの半分以下）、毎回咳嘔吐してしまう、顔色が悪い、ぐったりしているなどの症状がみられたら夜間でも受診しましょう。また、無呼吸や痙攣を起こすこともあり、危険な症状もみられます。熱が高くなくとも、呼吸状態がおかしい、苦しそう、顔色が悪いなどの症状がある時は、迷わずに受診をしましょう。経過は長く、咳が 1 ヶ月くらいは続くこともあります。熱が下がっても、咳の激しい間はお休みしましょう。

早産児や慢性肺疾患、先天性心疾患などの 0-1 歳児には、パリーブズマブ（抗 RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体）という RS ウイルスに特異的なガンマグロブリン注射が保健適応となっています。筋肉注射ですのでとても痛い注射ですが、流行期間に毎月打つことによって、免疫物質を補充することが出来ます。適応期間がかなり限られていますので早産児や心肺疾患のあるお子様の注射ご希望の方は小児科医にご相談ください。

【財務状況公表について】

～病児保育室あんず財務状況の公表～

毎年義務となっている財務状況報告を、しみず小児科・内科クリニックのホームページに掲載させて頂きました。詳細は、ホームページをご覧ください。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	206
2	溶連菌	78
3	咽頭アデノウイルス	40
4	ヘルパンギーナ	34
5	RS ウイルス	8
6	手足口病	6
7	水痘	5
8	おたふくかぜ	2
9	アデノウイルス胃腸炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

8 月 20～24 日は**夏季休業**とさせて頂きます。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～風疹について～

数年ぶりに成人で風疹が流行しています。主に、20歳から50歳代の男性に流行しています。最近では2012-2013年に流行し問題になりましたが、今年再燃しています。MRワクチンの2回定期接種が導入されてから数が減っていましたが、導入以前の風疹ワクチンを受けていない世代に流行しています。風疹の病原体は、風疹ウイルス（rubella virus）です。飛沫感染や接触感染によって感染します。2-3週間の潜伏期の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹がみられます。発熱と発疹は同時に出来ますが、咳、鼻水、目の充血などもみられます。人によっては発熱がみられず、気付かないうちに罹ってしまうこともあります。稀に、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎を起こすこともあります。治療は対症療法で、自然治癒します。一度罹れば、大抵一生かかることはありません。

特に問題となるのは、妊娠初期に罹ってしまうことで、先天性風疹症候群を発症することです。先天性風疹症候群のほとんどは、妊娠12週までに初めて罹った妊婦さんの胎児に起こる病気です。主な症状は、白内障、先天性心疾患、難聴で、このほかに先天性緑内障、色素性網膜症、紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜脳炎などを起こします。

風疹抗体価が低く、風疹に対する免疫がない方は風疹ワクチンを接種することで予防が可能です。麻疹と混合されているMRワクチンでも可能です。

～百日咳について～

このところ、百日咳も散発しています。通常、三種混合ワクチンや四種混合ワクチンを接種していれば抵抗力がありますが、この抵抗力は3-5年で落ちてきます。5歳児、10歳児で追加接種を行うことで、ある程度の抵抗力を維持することが出来ます。百日咳は乳児だと命にかかわることもあります。ひどい咳が長引くときは検査を受けましょう。

表：8月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	90
2	RSウイルス	38
3	溶連菌	33
4	ヘルパンギーナ	11
5	手足口病	9
6	咽頭アデノウイルス	8
7	水痘	3
8	百日咳	2

文責：

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



【感染症だより】

～インフルエンザワクチンについて～

今年もそろそろインフルエンザワクチンを接種する季節になりました。

★いつ受ける？ 一般的に毎年10月から12月にかけて受けます。一度接種すると、4-5か月間有効ですので、1-2月の流行時期に間に合うように接種します。接種後は、約2週間で免疫力がつきます。今年は、既に9月中からインフルエンザが発生していますので、注意しましょう。

★受けたほうがいい？ 受けるメリットは、死亡やインフルエンザ脳炎などの重症化を防げることです。インフルエンザに罹らないというよりは、重症にならないために接種しています。また、インフルエンザに罹ったとしても接種をしていればその分、免疫力が上がっていますから有熱期間が短縮されます。

★接種対象は？ 生後6ヵ月から接種可能で、12歳までの方は二回接種、13歳以上の方は1回接種です。二回の接種間隔は、規定では2-4週間となっていますが、4週間間隔で行うと抗体の上昇が最も良いと言われています。また、0歳児の接種については6ヵ月齢以上であれば接種可能ですが、この時期は免疫機能が未熟であるため、抗体がつきにくいと言われています。当院では、インフルエンザワクチンについては1歳以上になってからの接種をお勧めしています。0歳の子に接種するワクチン2回分を、例えばご両親に1本ずつ接種して、その子に移さないための予防をお勧めしています。

表：9月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	121
2	RSウイルス	50
3	溶連菌	43
4	手足口病	12
5	咽頭アデノウイルス	11
6	ヘルパンギーナ	8
7	リンゴ病	6
8	水ぼうそう	4

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★あんずからのお願い★

予約をキャンセルされる場合、時間外の留守番電話でも構いませんので、必ずご連絡をお願い致します。一人でも多くの方にご利用できるようご協力をお願い致します。

文責： 清水マリ子





病児保育室 あんず通信 Vol.36 2018年11月号

あんず通信では、クリニックの感染症流行状況や、季節ごとの情報などを毎月ご案内しています。

【感染症だより】

～感染性胃腸炎について～

例年 10 月から 12 月は感染性胃腸炎の流行期です。胃腸炎の原因はほとんどがウイルスで、抗生物質は効きません。ウイルスの種類によっては重くなることも、軽くなることもあります。また、罹った人の状態によっても、重くなったり、軽くなったりします。

小児、特に乳幼児はまだ抵抗力（免疫力）が弱いので、たびたび胃腸炎にかかります。そして、症状が長引きやすいです。赤ちゃんのお腹の腸は、大人の腸に比べてまだまだ未熟です。そのため、一度胃腸炎に罹ると回復するまでに時間がかかります。長い時は 2 週間以上かかる時もあります。症状は、嘔吐、下痢、腹痛、哺乳不良、食欲不振などです。最も気を付けたいのは、**脱水症**です。どんな胃腸炎でも、嘔吐や下痢がひどくなり、水分摂取が出来ない状態が続くと、体の中の水分が減ってしまい脱水症を起こします。点滴治療が無い時代には、脱水症で亡くなる乳幼児が沢山いましたが、今は違います。経口補水液や点滴治療が普及し、日本国内で脱水症で亡くなることはめったにありません。ただし、脱水症を見逃してしまうことで、入院治療が必要になってしまふことがあります。そうならないために、胃腸炎の時は、吐き気止めなどを上手に使い、経口補水液など少しずつを与えましょう。症状がひどい時には、点滴をします。また、点滴が必要ないレベルでも、食事を控えて経口水分補給のみ行います。水分補給のみで吐かずに半日から 1 日経過したら、少量ずつ食事を開始しましょう。食事は、お粥やうどん、パンなどの炭水化物から始めます。母乳は与えても大丈夫ですが、乳製品やかんきつ類はひかえましょう。

表：10月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	139
2	溶連菌	61
3	リンゴ病	11
4	アデノウイルス胃腸炎	7
5	水ぼうそう	6
6	ヘルパンギーナ	5
7	アデノウイルス咽頭炎	4
8	RSウイルス感染	2
9	おたふくかぜ	1
9	百日咳	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4 月から、**空き状況**を Web で確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★あんずからのお願い★

予約をキャンセルされる場合、時間外の留守番電話でも構いませんので、必ずご連絡をお願い致します。一人でも多くの方にご利用できるようご協力をお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック



病児保育室 あんず通信 Vol.36 2018年12月号

あんず通信では、クリニックの感染症流行状況や、季節ごとの情報などを毎月ご案内しています。

【感染症だより】

～溶連菌感染症について～

このところ上位で流行しているのが、溶連菌です。溶連菌はよくある感染症で、一生のうちに何度も罹る人もいます。主な症状は38℃以上の発熱と咽の痛みです。主な症状の他には、舌の表面が赤くブツブツしたり（イチゴ舌）、首のリンパ節が腫れたり、体や手足に赤い発疹がでたりします。発疹はかゆみを伴うこともあります。これらの症状が出ない場合もしばしばあります。溶連菌は飛沫感染によって流行しますので、一人見つかり、次々に発病者がでます。溶連菌の症状は風邪と似ていますが、ウイルス感染である風邪とは異なり、罹った場合には抗生物質治療が必要です。何故、溶連菌に罹る度にいちいち抗生物質治療をするかといいますと、合併症を起こすことがあるからです。合併症は全員に起こるわけでは無いですが、リウマチ熱や急性腎炎を起こします。これらは、溶連菌に罹患後10日から2週間後に起こります。リウマチ熱では関節痛や高熱、神経症状のほか、心内膜炎から心臓弁膜症の後遺症がでることがあります。また、急性腎炎の場合、急にむくみが出たり、肉眼的血尿（尿の色はコカ・コーラやウーロン茶、赤ワイン色など）がみられます。いずれも、入院治療が必要な病気です。

～風疹について～

メディアでも報道されているように、今年は風疹が流行しています。小児は、定期予防接種で1歳と就学前に行うMRワクチンを受けていれば、めったに罹患することはありません。しかし、未接種の方や罹患歴が不明な方は注意しましょう。妊娠を希望する成人やその家族の風疹予防接種費用の一部が助成されます。詳しくは市のホームページをご覧ください。

文責： 清水マリ子

表：11月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	118
2	溶連菌	54
3	リンゴ病	17
4	アデノウイルス咽頭炎	9
5	RSウイルス感染	2
6	水ぼうそう	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

H30年4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。スマホ・携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★あんずからのお願い★

予約をキャンセルされる場合、時間外の留守番電話でも構いませんので、必ずご連絡をお願い致します。一人でも多くの方にご利用できるようご協力をお願い致します。



しみず小児科・内科クリニック